

ジョブコーチ・相談員を核として、 ワンチームで障がい者支援に取り組む

(株)シーエックスカーゴ

〈事業場情報〉 ●所在地：埼玉県桶川市 ●事業内容：運輸業 ●従業員数：4,484人（障がい者含む）
●障がい者数：140人（身体障がい29人、知的障がい71人、精神障がい40人）

核となるジョブコーチ、相談員

(株)シーエックスカーゴでは、2005年ごろから障がい者雇用を積極的に行い、現在では法定雇用率を大きく上回る5.98%（2019年9月時点）の障がい者が働いている。同社で働く障がい者の約6割が知的・精神障がいだが、人手不足が続く物流業界にあって即戦力となっている。

「当社では、障がい者が健常者と遜色なく働けるよう、事前に障がいの程度・特性を把握し、よりマッチングした職場配置を行うようにしています。物流倉庫での作業は、毎日同じ仕事を同じメンバーですることが多いことから、知的・精神障がい者にとっては、安心感をもって仕事ができます」。こう話すのは、人事部人財開発課人財開発Gの當郷綾香さん。

同社の障がい者雇用率や定着率が高い背景には、2つのキーマンの存在がある。「企業在籍型職場適応援助者」（以下、ジョブコーチ）と「障害者職業生活相談員」（以下、相談員）だ。

本社に配属されているジョブコーチ

は、障がい者の直接支援はもちろん、相談員の教育指導や相談員自身の悩みとも直接向き合いながら、障がい者支援を統括するという重責を担っている。當郷さんもその1人である。

また相談員は、障がい者を5人以上雇用している事業所に配置が義務付けられており、障がい者とともに悩み、一緒に問題を解決してくれる身近な存在である。同社では6事業所にそれぞれ1～3人の相談員が配置されている。

それぞれの役割について聞いてみた。

あくまで中立の立場で

今の職場に転職して来たという當郷さんは、自身も車椅子利用者として、前職で経験したさまざまな悩みを役立てたいと、ジョブコーチを目指したという。「今の職場も、健常者が障がい者をケアする負担が高いという声を聞いていました。障がい者を何とかサポートできないか、困っている現場をどうにかできないかと悩むことが多いのですが、障がい者が困っていることについて、中立の立場でまずどうすればそれを解消できるのかを最初に考えるようにしています」（當

郷さん)。

同社では相談員のスキルアップのため、半年ごとにジョブコーチが講師となって研修を行っている。障がい特性、関係法令、各種制度等の専門的知識はもちろん、各事業所で発生した具体的事例を共有して、相談員と一緒に解決策を見だしていくディスカッションも行う。

続いて、相談員になって2年目という桶川流通センターの佐藤優子さんに聞いた。

「当初は、障がい者への知識もあまりなかったのですが、まずは現場に行って仕事を見ることから始めました。知的障がい者は、働くことに対する意欲を自ら見いだすことが苦手だと感じる人が多いので、ジョブコーチと相談し年4回「はたらくためのべんきょうかい」を開くことにしました。社会人とは？ はたらくとは？ から始め、服装や安全のルールなどを学んでいきます」。

次に、障がい者の声を聞いてみた。桶川流通センターで、商品のラッピング作業に従事している知的障がいのAさん。2019年4月に入社したAさんは、その仕事ぶりから後輩の障がい者への指導も任されているという。

「皆さんが優しく接してくれますし、毎日仕事は楽しいです。まずは健康に気をつけて体調が悪くならないようにしています。また、作業でカッターを使うことが多いので、ルールをしっかりと守り、軍手をする事でケガしないよう気をつけています」と元気に話してくれた。

障がい者の加齢への配慮も

さて、同センターは、「令和元年度障害者雇用職場改善好事例」の最優秀賞



佐藤さん(左)、當郷さん(右)

(厚生労働大臣賞)を受賞した。今回の主な受賞理由は、障がい者の加齢への配慮が進んでいること。加齢で体調を崩すことが増えた障がい者に対して、通院時間の確保や勤務時間の短縮、また担当業務を身体的に負荷の少ない作業とし、周囲の従業員によるサポートを手厚くするなどの取り組みを行っていることが評価された。

「社員本人の加齢だけでなく、両親の高齢化によって、どうしても就労できなくなる障がい者もいます。その場合は行政機関とも連携し、グループホーム入居に向けた支援なども行っています」(當郷さん)。

最後に當郷さんにジョブコーチのやりがいやご苦労について聞いてみた。

「自身にも障がいがあるので、家族の気持ちはよく分かります。家族との面談では、やはり感情移入してしまうこともあるのですが、相談員と一緒に問題解決していける点は心強いです。もともと空手を長く続けていたので、窮地に立たされたときには、何とか打破しようという意欲がわいてきます(笑)」。

最近、ジョブコーチ・相談員への相談は、障がい者だけではなく健常者からのメンタルヘルス相談もあるという。今後は産業保健スタッフ(産業医)との連携を密に進めていきたいという。(編集部)